

目指す学校像	○自分と共に他の人を大切にできる学校(自他共愛) ○安全で楽しく秩序ある学校
--------	---

重点目標	1 学びの自律、個別最適化の深化に向けた情報端末の活用と授業実践 2 安心・安全な学校づくりに向けた生徒指導・教育相談体制の充実と交通安全教育の推進 3 コミュニティ・スクールとしての成熟から進化に向けた方策の共有と行動 4 ICT技能・活用能力向上に向けた教職員研修の充実と教科担任制全面実施に向けた検証
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和5年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では埼玉県の平均に近い結果となっているが、国語科では県の平均をやや下回る結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ、理科・社会で高く、国語・算数・GSで平均に近い結果となっている。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「記述式」の問題形式の正答率に課題があり、「書く力」を育てる必要がある。 ○基礎的な知識及び技能の定着に課題があり、学校で繰り返し学べる機会をつくっていく必要がある。 ○算数の思考力・判断力・表現力に課題が見られるので、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実践していくことが課題である。	・学びの自律と個別最適化の深化に向けた情報端末の活用 ・児童が主体的に学ぶ授業の構築に向けた授業実践	①国語、算数について、タブレット端末を授業、家庭学習で活用し、児童の学習への取組状況・つまづきを確認し、個別最適な学習ができるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力し、さらに担任からポイントとなる点を指導することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③学習状況調査の結果から、「表現力」に関する状況を分析するとともに、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、授業改善を行い、児童の表現力向上を図る。	①タブレット端末を活用した家庭学習が位置付けられたか。 ②児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。学習相談室利用児童の90%以上が、利用前よりも利用後の方が、「分かるようになった」と回答したか。 ③調査結果の分析や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを設定する事ができたか。	①宿題や長期休業中の課題をタブレット端末の活用により実施する事ができた。 ②児童が調査結果や、自分の課題を把握する時間を作り、課題克服のための学習の時間と場を設定した。学習相談室利用者の91.7%が利用後のアンケートを「分かるようになった」と答えていた。 ③調査問題を教員が解くことや、児童の結果から見えた課題について検討する時間を校内研修に位置付け、児童に寄り添う学習につなげた。	B	○「書く力」「伝える力」の向上に向けた授業展開の工夫とタブレット端末の有効活用についての検証を行い、教員の授業力、児童の学力の向上に努める。 ○学習相談室や朝自習等を活用し、学習をする場や振り返る機会を設ける。サポート教員として保護者・地域の方にも協力を依頼していく。 ○家庭学習が計画的に行われているかのアンケート結果で肯定的な評価が48.2%という結果を受け、基礎・基本の定着に向けて、児童が自主的に取り組めるよう家庭とも連携を図っていく。	・教員の資質向上に向けた研修については、他校や他の教員の授業を見るなど、様々な方法で実施してもらいたい。 ・児童に自信を持たせられる授業展開をお願いしたい。学習に自信が持てれば、意欲的に取り組む姿につながると考える。 ・「伝える力」への課題は大きい、今の学びが日常生活に結び付けられるようにしていくことが大切だと思う。 ・自分で考えさせ、実行させることを学習でも位置付けてもらいたい。目標に向かって、自分でこうしていきたいというより具体的な手立てを考えていく力も児童に身に付けさせていってほしい。
2	〈現状〉 ○学校評価において、「学校生活が楽しい」と回答した児童は、9割以上であった。 ○昨年度のいじめ認知件数17件、不登校児童17名であった。 ○通学路の危険箇所を要望提出するための調査を実施した。 〈課題〉 ○様々な事情で児童の心身への影響が出ていることから言動が荒くなったり、欠席が続いたりしているため、一人ひとりの状況・家庭環境を把握し、組織的な支援・相談体制づくりが課題である。 ○通学路について、保護者・地域との連携のもと、警察等への要望を継続するとともに、児童への安全指導を徹底し、自ら危険を予測、回避する力をはぐくむことが課題である。	・安心・安全な学校づくりに向けた生徒指導・教育相談体制の充実 ・学校、保護者、地域の連携による交通安全教育の推進	①教育相談に関わる校内委員会では、ICTを活用し、常に最新の情報を確認する。データの蓄積により、児童の状況を継続して把握し、対応を考えていけるようにする。 ②児童向けアンケートを紙だけでなく情報端末を活用して実施し、早期に集計、分析をし、支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①教育相談については、データの蓄積により、対象児童への対応の仕方を全教職員で把握する事ができ、対応についても組織的に取り組んできた。アンケート結果は肯定的な回答が96.7%であった。 ②児童アンケートの結果は、75.2%、保護者アンケートの結果は、95.1%であった。	B	○相談できる体制づくり、教職員のカウンセリングマインドの向上のため、研修に取り組む。話を聴くことができる教職員を目指し、児童・保護者が悩みや困ったことがあったときに相談できる学校を目指す。 ○実態把握に加え、その後の対応についても実施例を蓄積し、学校として対応力の向上に努める。	・教育相談についてのアンケート結果より、児童の数値が低いことへの検証をするとともに、児童に寄り添う相談体制、教員の資質の向上をお願いしたい。 ・児童の特性を考慮した対応、家庭からの要望が増えている現状から、組織としての対応をより強化していってもらいたい。 ・交通安全に対して、子ども目線で安全会議を行っていただくことはとても有効である。さらに班長の役割について、歩き方や歩くスピード等について具体的に示し、班長の意識を高めたい。
3	〈現状〉 ○昨年度、学校運営協議会準備委員会を設置し、熟識化を図り、組織体制を構築した。 〈課題〉 ○学校運営協議会を立ち上げ、児童に育てたい力や、その実現に向けた具体的な方策について熟識し、継続的な行動に向けた一歩を踏み出すことが求められる。	・育てたい児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動の公開 ・「大宮西小コミュニティ・スクール成長プラン(仮称)」の策定と行動	①HPに、学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く共有できるようにする。 ②児童の姿を見てもらえるように、コロナ禍であるが、対策を適切に取りながら、学校行事の積極的な実施・公開を進める。	①学校自己評価に係るアンケートで「コミュニティ・スクールの一員として目指す児童の姿を共有できた」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで「児童の成長に対する関心が高まった」と回答する割合が80%以上となったか。	①②ともに、アンケート結果は、肯定的な回答が100%であった。しかし、「そう思う」の答えた割合は、①30%、②50%であり、学校の情報を伝える、保護者・地域との連携をさらに図ることが必要であると考え。	B	○HPを有効活用できなかったため、更新頻度の見直しを図るなど情報発信を積極的に行っていく。 ○コロナ禍での教育活動であり、学校の様子を見ていただく機会が減少してしまった。次年度は来校いただく機会の検討を行うとともに、学校発信の情報提供を強化する。	・HPの運用について、担当のみでなく誰もが更新できるようにすることがまず必要であろう。 ・PTAのHPも学校のものと一緒にし、見る側が1つを見れば、学校・PTAの両方の情報が得られるようにしていけたらよりよいと思う。 ・「潤い自然園」は、四季を感じることができるよう通路の整備をお願いしたい。 ・学校の安全確保のため、学校警備員の一日対応をお願いしたい。
4	〈現状〉 ○ICTの活用について、授業実践をした中で、有効な手立てとなった活用法を、エバンジェリストが中心となり、研修を重ねてきた。 ○昨年度、第6学年で教科担任制を実施し、実施した教科についての成果と課題について確認をする事ができている。 〈課題〉 ○ICTの活用について、教員間の技能、活用能力の差をなくし、全ての教員が学び続けられる環境づくりが求められる。 ○高学年での教科担任制実施から見えた課題を洗い出し、より効果的な、さらに教員の資質向上につながる実施に向けて検証することが課題である。	・ICT技能・活用能力向上研修、教科担任制検証委員会、授業改善	①タブレット端末を活用した授業実践、スタディサプリを活用した個別最適な学習の推進に向けて、エバンジェリストによる研修会・情報伝達を毎月実施する。 ②教科担任制の実施で見えた成果と課題を分析し、検証委員会を実施する。 ③全教員が年間1回以上授業を公開し、校内においてOJTを実施する。授業改善に向けた資料、データの蓄積をし、活用できる環境を整える。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②令和5年度全面実施の教科担任制に向けた時間割作成、教材の整備が完了したか。 ③教員が授業改善に役立てることができる環境が整ったか。	①学校評価アンケート(教職員)結果では、タブレットを効果的に活用した学習を実施したと96.7%が肯定的に答えている。また、同アンケート(児童)についても「授業を通して理解が深まった」の項目に93.2%が肯定的に回答をしていた。 ②今年度実施分を受け、検討委員会を実施し、次年度実施案の作成は完了した。 ③教員のICT研修の実施により、全教員がタブレット端末を活用した授業を展開できた。	A	○エバンジェリストを中心としたICTを活用した授業づくりや教員のスキルアップに向けた研修の実施を継続する。 ○教科担任制の成果と課題の検証を学期ごとに行い、改善案を立てる。	・ICTの活用については、引き続き教員の研修を進め、活用に向けてさらなる充実を図ってもらいたい。